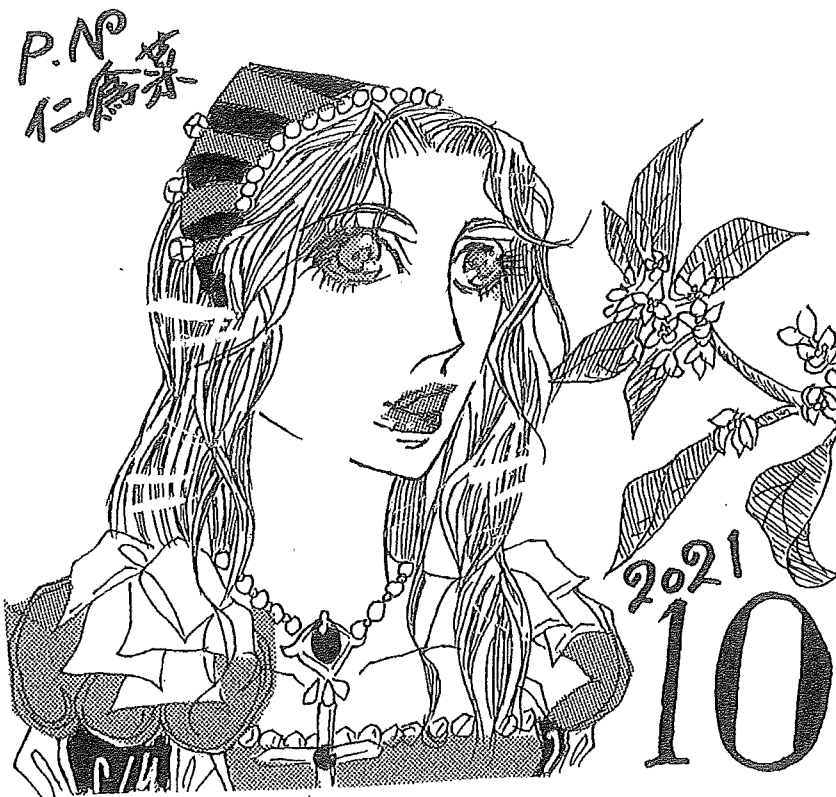


旅立ち

社会福祉法人しらとり会
利用者通信 (NO. 73)
令和3 (2021) 年 10 月 1 日発行

今月は、5名の方からの投稿です。

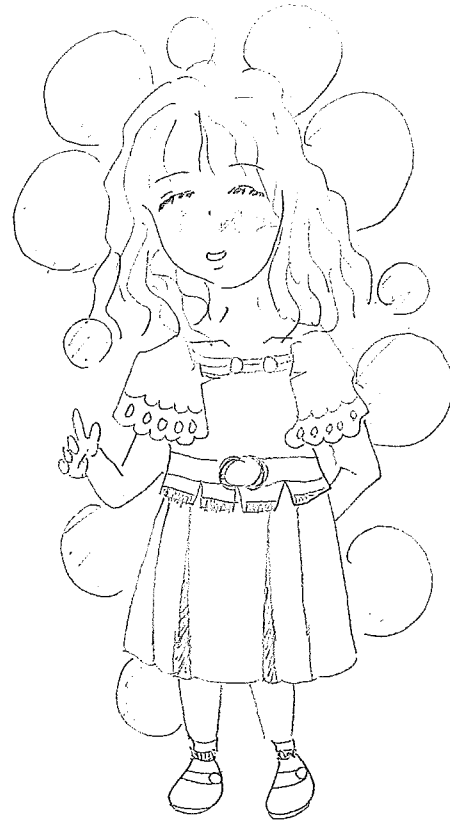


「何てたって ハルキスト!!!」 (その3)

その後 2001 年から 2005 年の間に『アフターダーク』と『海辺のカフカ』が出版されるのですが、若い頃の情熱を読書に捧げる事も出来ず、読了しませんでした。2006 年から 2010 年の間に『走ることにして語るときに僕の語ること』と『1Q84』が出るのですが、特に平成の名作 No.1 だと朝日新聞が推薦していた『1Q84』青豆と天吾の話は、買って読みました。2009 年僕の今現在の年齢 (60 歳) で、村上春樹は『1Q84』を書き上げました。そして、その年にイスラエル最高の文学賞である、エルサレム賞を受賞されました。
(Y.Y.)



黒田美鈴



- 精神科医は患者の考えを治すことはできても自分の考えを治すことは不可能だ。
- 全く期待可能性がない。
- OPSWに言わせれば自己覚知ができていない。
- 自己覚知ができていない人間に患者同様治療は無理だ。
- もっとジョハリの窓の開放領域を拡大すべきだ。
- 問診でも返報性の現象がまるでない。
- 問診がSST化してまるでお通夜である。
- 人生楽ありや苦もあるさの水戸黄門通りだ。
- 問診室に入ると病気が重篤化する。
- 学問と商売の使い分けの質・量・程度・基準ができていない為、独立してもビル診療が関の山だ。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

読んでいただいた方からのご感想をお寄せください。また、利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、10月15日(金)です。

『旅立ち』編集委員：加藤、本川、A-Z、H.A.